

2004. 6

霊性センターニュース

189号



カンパニユラ

カンパヌラ

（ラテン語で小さな鐘・鈴）

カンタベリーベル

（カンタベリー寺院の鐘）

和名：風鈴草

（花形が鐘状であることから）

「眼差しの向こう」

カルメル会 中川 博道

わたしたちは生活の中で、様々な眼差しに出会います。自分に向けられるものと、出会う一人一人が何かを追い求めて注ぎ続ける眼差しです。その眼差しはわたしたちを、自分では直接見えない世界へと導きます。

わたしには、時々、思い浮かべるある宣教師の眼差しがあります。教会に近づいたばかりのわたしに、「この人が見つめている現実をわたしも見てみたい」、「この人が出会っているお方にわたしも出会ってみたい」と思わせた眼差しでした。

アヴィラの聖テレジアは、「イエスの眼差しを探すこと」を勧めます。それは、わたしたちに注がれるイエスの眼差しです。そしてイエスが注ぐ「アッパ（父）」への眼差しです。

注意してよく読んでみると、福音はイエスのアッパに注がれる眼差しに満ちています。ミサはイエスと共に注ぐアッパへの眼差しそのものといっても過言ではありません。またイエスご自身が「アッパのわたしたちへの眼差し」と言っても良いのかもしれませんが。イエスの道をイエスと共に歩むことはアッパの眼差しの中を生きることなのです。

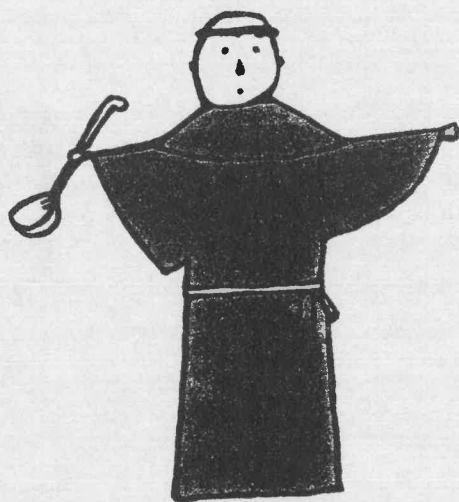
「父なき社会」と言われて久しい日本社会の中の教会において、最近感じる「父の眼差し・父への眼差し」の不在は、キリストの歩む道を見えにくいものになっている面があるように思います。それは教会共同体の持っている本来の筋道を見失わせ、「やさしさ」、「癒し」、「慈しみ」、「愛」など、基準の見えない言葉の氾濫の中で、様々な混乱と曖昧さを生み出し、共同体を閉塞させていく要因になっているように思われます。

「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます。」

(ヨハネ 14、8)

わたしたちはこの時代、どこに自分の眼差しを注ぎながら生きているのでしょうか。教会は今の社会の中でどのような眼差しとなっているのでしょうか。

カルメル会の企画案内



毛 野
カルメル修道会 シ 聖テレジア修道院 (黙想)

2004年4月～2005年3月までの黙想会予定表

1. 聖書深読 (毎回土曜日 夕食～日曜日 16時)

4月 3日～ 4日・・・九里彰師	了	9月4日～ 5日・・・奥村一郎師
5月 8日～ 9日・・・奥村一郎師	了	11月27日～28日・・・九里彰師
6月26日～27日・・・九里彰師		'05/3月19日～20日・・・奥村一郎師

2. 奉獻生活者のための黙想会

- ・ 7月27日(火) 16時 ～8月 5日(木) 朝・・・渡辺幹夫師
- ・ 8月11日(水) 16時 ～8月20日(金) 朝・・・チプリアノ師
- ・ 12月27日(月) 16時 ～1月5日(水) 朝・・・九里彰師

3. カルメルの聖人を見つめ霊性を深める

(毎回水曜日 10時～16時)・・・九里彰師

A・・・大聖テレジア

B・・・十字架の聖ヨハネ

- | | | | |
|-----------|---|------------|---|
| (1) 4月21日 | 了 | (1) 5月26日 | 了 |
| (2) 6月 2日 | | (2) 7月 7日 | |
| (3) 9月29日 | | (3) 11月24日 | |
| (4) 12月1日 | | (4) 1月19日 | |
| (5) 2月16日 | | (5) 3月 2日 | |

4. 青年男女黙想会・・・九里彰師・神学生

- (1) 5月22日(土) 16時～23日(日) 16時 了
- (2) 11月6日(土) 16時～7日(日) 16時

5. 召命黙想会(男女)・・・九里彰師・原修士

10月1日(金) 16時～3日(日) 16時

6. 大祭日のミサにあずかるために

チェックイン午後3時から。(講話なし) チェックアウト午前10時まで

- (1) 復活祭 4月10日(土) 夕食なし～11日(日) 朝食あり 了
- (2) クリスマス 12月24日(金) 夕食なし～25日(土) 朝食あり
- (3) 復活祭 '05/ 3月26日(土) 夕食～27日(日) 朝食
- (4) 聖週間を黙想する '05/ 3月24日(木) 夕食～27日(日) 朝食

7. ユース リトリート《カルメルの泉》 青年男女 大瀬高司師

(1) 5月1日(土) 16時～2日(日) 14時 了

* 年間に何回か企画する予定ですので、その都度お知らせします。

8. 特別黙想会

最初の日夕食をすませてからお越しください。どなたでも参加できます。

① 6月 7日(月) 20時～ 9日(水) 15時 新井延和師

② 10月25日(月) 20時～27日(水) 15時 新井延和師

③ 5月28日(金) 20時～30日(日) 15時 了

“わたしは神を觀たい。” カルメルの靈性 Sr. 伊從信子

④ 11月19日(金) 20時～21日(日) 15時

“テレーズと共に祈る” Sr. 伊從信子

9. 待降節黙想会 チブリアノ師

12月3日(金) 夕食 ～ 5日(日) 15時



* 電話でのお問い合わせは 午前9時～午後4時45分までをお願いします。

また、お申し込みは電話でもお受けいたしますが、間違いを避け、時間も問いませんのでなるべくFAX・はがき・Eメールをお願いします。(お返事は致します)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)担当 br 原

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

[カルメルの靈性研究クラス]

*十字架の聖ヨハネ：「カルメル山登攀」

6月9日、6月23日、7月は8日（木）。

（6月9日は、第3部第21章～第25章を読みます。）

*アヴィラの聖テレジア：「自叙伝」

6月16日、6月30日、7月14日。

（6月16日は、第29章を読みます。）

どちらも水曜日、夜7：00より、上野毛教会信徒会館2階26号室
でおこなわれます。

[祈りの集い]

5月28日、6月25日、7月16日、10月29日、11月26日、
12月17日

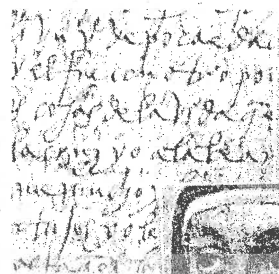
毎月一回金曜日の夜7：00より、上野毛聖テレジア修道院（黙想）
小聖堂にて。都合の悪い場合は上野毛教会信徒会館ホールでおこなわ
れます。何の準備もありません。

7：00～8：00 み言葉と念祷

8：00～8：30 分かち合い（茶話会）

[靈性研究クラス][祈りの集い]、いずれも申し込みは不要です。不定期
の参加も可能ですが、「カルメルの靈性研究クラス」の方は、なるべく
継続して出席されることが望まれます。

担当：九里^{くのり} 彰神父



2004年

黙 想 会 案 内 (宇治カルメル会)

【聖書深読黙想会 (土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

1月24日(土)～25日(日)	新井延和神父	了
2月28日(土)～29日(日)	福田正範神父	了
4月24日(土)～25日(日)	中川博道神父	了
5月29日(土)～30日(日)	福田正範神父	了
6月26日(土)～27日(日)	奥村一郎神父	
7月24日(土)～25日(日)	福田正範神父	
9月 4日(土)～5日(日)	新井延和神父	
10月30日(土)～31日(日)	中川博道神父	
11月20日(土)～21日(日)	九里 彰神父	
12月11日(土)～12日(日)	奥村一郎神父	

【青年のための黙想】

・男女性のため	4月18日(日)午前10時～午後5時	カルメル会士、カルメル宣教会
	10月17日(日)午前10時～午後5時	カルメル会士、カルメル宣教会

【一般のための黙想】

・水曜の黙想	(午前10時から午後4時まで)	
1月21日(水)	受肉の神秘	新井延和神父 了
2月11日(水)	イエスの祈り	アロイジオ神父 了
3月17日(水)	聖ヨセフ	福田正範神父 了
4月14日(水)	復活	新井延和神父 了
5月19日(水)	マリア様と共に	奥村一郎神父 了
6月16日(水)	聖 霊	長岡幸一神父
7月21日(水)	カルメルの祈り	新井延和神父
9月15日(水)	十字架の神秘	福田正範神父
10月13日(水)	アビラの聖テレジア	シスターベアトリス
11月17日(水)	諸聖人の通功	長岡幸一神父
12月15日(水)	十字架の聖ヨハネ	奥村一郎神父

・四旬節の黙想 3月6日(土)午後5時～7日(日)午後4時 福田正範神父 了

・待降節の黙想 12月4日(土)午後5時～5日(日)午後4時 中川博道神父

・聖テレーズの黙想 伊従信子氏
9月30日(木)午後5時～10月1日(金)午後4時

【奉献生活者の黙想】 (午後5時集合/午前9時解散)

7月11日(日)～ 7月20日(火)	新井延和神父
8月 2日(月)～ 8月11日(水)	中川博道神父
8月16日(月)～ 8月25日(水)	福田正範神父
10月18日(月)～10月27日(水)	福田正範神父

その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

申し込み方法: -

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX あるいはハガキでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないことがあります。その際は、おそれいりますが、後日、改めてお問い合わせさせていただきますよう、お願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

「立ちどまって、ひといになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～ (2004)

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28:20)といわれました。共にいるイエス様とのひとときを、都会の真中で過ごしてみたいかでしょうか。若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについてイエス様の言葉からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第1回	1月12日(月)	「聖ルカに聞く(1)」	松田浩一 神父	了
第2回	2月11日(水)	「カルメル諸聖人の道」	大瀬高司 神父	了
第3回	3月23日(火)	「聖ルカに聞く(2)」	松田浩一 神父	了
第4回	4月29日(木)	「わたしたちの召命」	中川博道 神父	了
第5回	5月25日(火)	「聖ルカに聞く(3)」	松田浩一 神父	了
第6回	6月29日(火)	「恵みの梅雨」	松田浩一 神父	
第7回	7月19日(月)	「神の国への道標」	松田浩一 神父	
第8回	9月28日(火)	「聖ルカに聞く(4)」	松田浩一 神父	
第9回	10月11日(月)	「神の家族」	中川博道 神父	
第10回	11月23日(火)	「わたしたちの使命」	九里 彰 神父	

*時間 いずれも AM10:00～PM4:00

*場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線、日比野駅下車徒歩5分)
(駐車場は利用できません。)

*費用 1,000円

*持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、昼食の弁当

*定員 約15名

プログラム	10:00～	祈り
	10:45～	講話【1】
	12:00～12:45	昼食
	12:45～	ゆるしの秘跡または短い面接
	13:30～	講話【2】
	14:45～	ミサ
	15:30～	茶話会

・また、空いている時間にゆるしの秘跡または短い面接を受けることができます。

申込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前まで必着のこと。尚、日比野教会の葬式などある場合は中止となりますので、ご了承ください。

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院 一日静修係(担当 松田浩一 神父)

FAX 052 [671] 1825、(お問合せ) TEL 052 [671] 1003

聖書深読センターのご案内

1. 聖書深読黙想会

① 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。（p.3）

② 宇治・・・宇治 〃 (p.6)

③ 名古屋

第一回	4/17（土）	日比野カトリック教会	中川博道神父	了
第二回	5/22（土）～5/23	宇治カルメル黙想の家	奥村一郎神父	了
第三回	10/2（土）～10/3	宇治カルメル黙想の家	奥村一郎神父	
第四回	11/6（土）	日比野カトリック教会	中川博道神父	

* 毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。

* 原則として、定員21名とし、申込はファックスまたは葉書でお願いします。

* コースは、深読法を集中的に行なう1日コースと、全工程を行なう一泊二日コースがあります。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたで構いません。

連絡先：〒465-0058 愛知県名古屋市名東区貴船 3-2115 小林 厚

Tel/Fax：052-701-3685

④ 横浜

◎ 1泊2日 コース

月 日	場 所	指導司祭
3月16日（火）～17日（水）	聖母の園（横浜・戸塚）	大瀬高司師
5月19日（水）～20日（木）	鎌倉修道院（鎌倉・十二所）	大瀬高司師
9月15日（水）～16日（木）	鎌倉修道院（鎌倉・十二所）	中川博道師
11月9日（火）～10日（水）	聖母の園（横浜・戸塚）	奥村一郎師

了
了

◎ 1日 コース

1月22日（木）	ザビエル・センター（横浜・滝之上）	九里 彰師
7月14日（水）	〃	大瀬高司師

了

連絡責任者 密本昌俊 TEL・FAX 045(621)5838

お知らせ

聖書深読黙想会にまだ一度も参加された事のない方のために、奥村神父様の考案された聖書深読法の楽しさ、そして喜びを体験していただく日を設けました。奮ってご参加ください。

日時：6月30日（水）10時～3時まで

場所：横浜ザビエル・センター（中区・滝之上）

会費：1500円（昼食代を含む）

連絡責任者 密本昌俊 TEL・FAX 045（621）5838

2. 通信深読について

通信深読は現在何箇所かで行なわれているようです。そのうちの2箇所が、新たに参加可能なので紹介します。

（1）朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5の用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」、そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4月、7月、10月、1月に入れる）

継続 15,950円

講師：丸里 彰師（奇数月） 新井延和（偶数月）

問い合わせ：〒163-00278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル
私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部
電話 03-3344-2527（直通）

（2）有光 信子

参加者は「素読表」（B5あるいはその半分に記号、全、および思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回300円 年10回3千円

送り先：〒663-8033・西宮市高木東町31-20-505

有光 信子 ・ TEL&FAX：0798-67-8132

3. ミニ深読

グループで、2, 3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光または、Sr. ベアトリスが指導に行くことも可能です。

問い合わせは、「聖書深読センター」事務局 Sr. ベアトリスまでお願いします。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問合せ下さい。

所長 : 奥村一郎 神父
事務局長 : 新井延和 神父
連絡先 : シスター ベアトリス

〒611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

tel: 0774-32-7016

fax: 0774-38-2543

e-mail: carmis@mbbox.kyoto-inet.or.jp

2004年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場所 : カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

ご指導

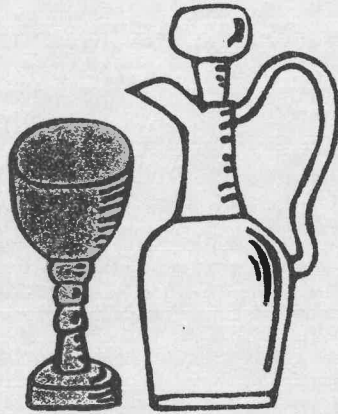
日程 : 6 / 17 (木) 夕食 ~ 6 / 20 (日)	チプリアノ神父様
9 / 7 (火) 夕食 ~ 9 / 10 (金)	アロイジオ "
10 / 14 (木) 夕食 ~ 10 / 17 (日)	中川 博道 "
11 / 9 (火) 夕食 ~ 11 / 12 (金)	九里 彰 "

☆ 空きがある場合には、一般の方でも参加できます。

☆ お申し込み、お問い合わせは下記まで。

TEL・FAX 03-3892-1378 (阿部 昌子)

心の泉



今日に至るカルメルの日本宣教

マリア・パウロ大瀬高司神父

はじめに

黒船来航に端を発した日本の開国（鎖国政策継続の断念）は、鎖国政策と密接に結びついていたキリスト教禁教の籬（たが）をも揺るがすことになり、近代国家の発展に伴い、信教の自由も制限を受けながらも前進していった。約140～150年前のこの時代、宣教再開の歩みの中に、邦人信徒たちにカルメルがその名を知られる要素が存在していた。昨年、女子カルメル来日70周年（1933－2003）を祝ったが、1933年（昭8）という年は、浦上の隠れキリシタンとプチジャン師が歴史的に出会う大浦天主堂の建築が始まって（1863）から70年目に当たった。日本におけるカルメルの宣教は、カルメルなしで知られていった約70年と、カルメルが来日して直接接点を持った約70年の歩みがあったと見直すことが出来る。

カルメルの歴史的痕跡、資料

これまで公になっているカルメル関係の歴史的資料の中で最古の物は、東京国立博物館に所蔵されているスカプラリオと推定される。スカプラリオは、同館が発行している『キリシタン関係資料カタログ』には、「守裂（まもりぎれ）」という名で分類をされている。（他に、十字架、ロザリオ、踏み絵等々）このスカプラリオは、19世紀のフランス製でカルメル山の聖母のものが大多数である。これらスカプラリオの出所は、カタログによれば「明治12年（1879）、長崎代官所から内務省に移された“浦上四番崩れ”（1867－1873）での没収品」とされている。「浦上の旧信徒発見」と称されてきた大浦天主堂でのプチジャン師と浦上のキリシタンたちとの出会いは1865年の3月17日、浦上四番崩れで最初の捕縛が行われたのが1867年7月15日のことであるから、約2年4ヶ月の間に宣教師（たち）が与えたことになる。長崎に残る伝承によれば、スカプラリオの授与は、まとめて受け取った信徒が回していくような物ではなく、司祭による着衣式を要するとする正規の慣習が伴っていた。従って、この最古と見なされ得る資料を長崎にもたらした宣教師は、1867年7月までに長崎に到着したプチジャン師を含む数人のごく限られた人々に特定することが出来る。資料の現存の功労は、皮肉にも迫害（の過程で行われた没収）であったということは、信仰を深める思い巡らしには絶好の出来事である。出来ればなかった方が良かった、ご勘弁願いたい出来事

にも、神による救いの歴史の中で、何らかの役割が与えられていたりする。同時代の現存資料として、プチジャン師作成の1867年（慶応3）と1868年（明治1）版カトリック教会典礼暦（木版：カルメル山の聖母、大聖テレジア、十字架の聖ヨハネの記念日が記されている）、明治期の公教要理に記されている準秘跡、信心業の項目にあるスカプラリオの信心説明などが挙げられる。大聖テレジアの列聖は1622年。十字架の聖ヨハネの列聖とカルメル山の聖母が全教会の典礼暦に入れられたのが1726年。従って、第一次宣教期（1549-）には見られなかったカルメル関係の要素の伝播、流布が、第二次宣教草創期には起こっている。カルメルの宣教師（シスターを含む）抜きでカルメルが知られるような動きがあり、やがて、具体的にカルメル会招聘の機運が起こる。

跣足カルメル会招聘への功労者たち

一つ気をつけておきたいのは、スカプラリオの信心は跣足カルメル会の専売特許ではないということである。元々は、跣足でないカルメル、改革を経て別れる前の元のカルメル会で起こった信心である。従って、スカプラリオ＝跣足カルメル会の招聘という図式ではなく、プラス・アルファの要素があって、具体化していった。プラス・アルファとして、大聖テレジアや十字架の聖ヨハネによるより深い霊的生活への証しがあり、幼きイエスの聖テレーズによる宣教に開かれた大いなる功德があったということが挙げられる。また、そういうことを知らしめた功労者の存在も忘れてはならない。幼きイエスの聖テレーズに関しては、西宮市に彼女の名を戴く聖堂を献堂したS. ブスケ師の功労は特筆的である。

ブスケ師と並んで、日本にカルメルを知らしめていた人物として、これまであまり知られてきていなかったのが、長崎・出津教会にて、「女部屋（現・お告げのマリア会）」を創立、数々の事業によって町興しのモデルと今日においても高い評価を受けているM. ド・ロ師。並びに、出津教会草創期にド・ロ主任司祭を助任として支え、後に長崎教区長代理となったM. A. サルモン師。ド・ロ師は、テレーズのリジューのカルメル会入会志願を「若すぎる」と却下したことで必ず語られる「バイウーの司教」のバイウー県出身。出津教会祭壇脇には、テレーズの姉のセリーヌが描いた尊き面影の絵（コピー）が、その絵を世界中に流布することを支持した時の教皇ピオX世の肉筆の祝福と共に飾られている。後年、金祝（1918）を迎えたサルモン師が記念カードに選んだ御絵も、同じセリーヌによる絵であった。先頃亡くなられた横浜教区の松村師とカルメリット有志のご尽力で出版なった『パリ外国宣教

会年次報告(5分冊)』に、サルモン師が1914年の降誕祭に洗礼を受けた15才のフランソワーズという混血児の勇猛な信仰に関する記述があるが、この女性こそ、日本人カルメリット第一号である。彼女は、1929年、邦人初の司教である早坂久之助師によって、フランス・ショレーの女子カルメルに送られ、1930年に初誓願を宣立(修道名:イエスのマリア・テレジア)、1933年の東京修道院創立のメンバーとなった。早坂師は病のため、1937年にわずか10年の任期で長崎教区長を引退されるが、彼は在任中の1930年に聖M. M. コルベ師を頭とするコンベンツァル・フランシスコ会員一行を受け入れ、「長崎教区に邦人の活動女子修道会を」と同年、2人の女性をフランスに送っている。この女性たちは1934年に帰国して早坂師の手の中に初誓願を宣立、ここに、長崎純心聖母会が誕生する。早坂師のもう一つの念願であった女子観想修道院は、女子カルメルの東京への創立と早坂師の早過ぎる引退によって棚上げになって現在に至っている。

知られていなかった新たなリンクの発見

長崎とカルメル会の繋がりを示すもう一つの証となる人物がいる。それは、大阪大司教にして邦人二人目の枢機卿に上げられた田口芳五郎師である。来日した女子カルメルは、招聘者であるシャンボン大司教が準備した四ッ谷・六番町の仮修道院で2年余りを過ごした後、上石神井に正式な修道院を定める。六番町時代に女子カルメルの面倒を見たのは、当時、同じ敷地内の中央出版社の社長の任にあった田口師である。彼は、1940年、大阪司教と呼ばれ、戦時中は、カルメリットたちの加古川疎開などに尽力し、戦後間もない1947年には、西宮に第二の修道院創立を実現させる。1944年憲兵の拷問のために帰天したブスケ師の遺体を引き取り、涙ながらに葬儀を司式されたのも同師。そして、この田口師は、長崎の出津教会出身なのである。幼い田口少年は、ド・ロ師の指導の下、セリーヌの絵の前でカルメルのスカプラリオを身につけてロザリオを信者の中で繰って育ったと推定される。長崎とパリミッションの宣教師たち、そして、今日に至るカルメルの発展は、こうしたリンク(繋がり)で結ばれる。

在俗者草創期の新事実

最後に、カルメル在俗者会に関して、これまで理解され、伝えられてきたこととは違う新たな事実を披露しておく。

跣足カルメル在俗者会の日本創立は、これまで「1947年11月頃」とされ、既刊の日本キリスト教歴史大辞典編集委員会編集の『日本キリスト教史年表』

(1988年初版・1996年第四版、教文館)にも掲載されている(72頁)。この根拠は2000年にまとめられた『東京カルメル在俗者会沿革史』に挙げられている通り「(上石神井の)シスターからの手紙」である。今回、跣足カルメル会ローマ総本部の古文書館に残されている記録を調べてみた結果、これまでとは違う新事実が判明した。本部の資料によれば、日本での在俗者会創立認可は1946年8月16日付で、大阪と東京・上石神井のグループに出されている。大阪のグループの付司祭は“Henri Eugene Arnaud-UNTERWALD(：ウンテルワルト)師”(1908 9/16 生-1933来日・大阪教区-1998 9/14 帰天)。東京の付司祭は、何と“我会修道院の付司祭”とされ、固有名詞が見当たらない。別の資料、すなわち、1946年6月に届いていたグループ認可を願う文書の責任司祭の名として“Yves Gustave-COSSARD(コッサード)師”の名前がある。その略歴をパリ外国宣教会ホームページで調べてみると、次のような事情が分かった。師は1905 3/16 生まれ-1929来日・東京教区-1946 7/17 帰天、七里ガ浜に埋葬。即ち、コッサード師は認可を願ったが、手続き中に帰天。時の総長は、東京のグループには付司祭の名前を特定しない形で与えた。彼らの足跡をより詳しく調べることによって、それまでの在俗者会活動は今後、さらに明らかになっていくことであろう。

上石神井に集まっていた在俗者会員をはじめとする霊的求道者たちの中から、邦人初の男子会員も誕生した。故・中田潤二郎師(1949年渡仏)、井上洋治師(1950年同)、奥村一郎師(1951年同)。

おわりに

今日に至るカルメル会の日本での活動は、以上のような経緯で開花してきた。こうして眺め直してみると、宣教というもの、教会活動というものは、人間による意図的計画以前に神の選びと計らい、そして導きの上に開花してきたということが分かる。日本で、カルメルがどのように知られ、そして、その創立を望まれたか。ここでは敢えて記すことを控えるが、歴史上の流れを見ても、日本地方教会がカルメル会に期していることと、主の恵みである会のカリズマが一致していることは自明である。

断想 (192)

信 仰

山に入って 山を見ず
しかし 山との生きたかかわりは
その山が見えなくなってから 始まる
信仰にも こんな姿があるのではなからうか

信仰は その本質において
「粹」ではなく
「根っ子」とも言うべきものである
神の大地に「根」を下ろすこと
それが信仰である

信仰者となることは
区別することでもなければ 特別な人種になることでもない
もっとも深い意味において 人間となること
もっとも広い心をもって
すべてを受け入れることのできる人間になること
それが「神を信じ 人を信じる」ということである

(奥村 一郎)

ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(6 7)

私たちの中で息吹く神の息

私たちが聖霊について語る時は、私たちの中で息吹いている神の息について語っているのです。「霊」のギリシャ語はプネウマですが、その意味は「息」です。私たちは、息をしていることをほとんど意識していません。それは、生きるために絶対不可欠であるために、それがうまく行かなくなった時のみ、考えるからです。

神の霊は、私たちの息のようなものです。私たちが自分自身に対して親密である以上に、神の霊は私たちにとって親密なのです。私たちは、めったにそれに気づかないかもしれませんが、それなしには、「霊的生命」を生きることができないのです。私たちの内で祈り、愛や赦しや親切や善良さや優しさや平和や喜びの賜物をもたらすのは、神の聖霊です。死によって滅ぼされない生命を与えてくれるのは、聖霊です。ですから私たちは絶えず、「来てください、聖霊よ、来てください」と祈りましょう。

(0518)

私たちに与えられる神の息

今日生きたキリストであると言うことは、イエスを満たしたと同じ霊に満たされているということです。イエスと御父は、同じ息、すなわち聖霊を呼吸しています。聖霊は、イエスと御父を一つにする親密な交わりです。イエスは、「私は父の内におり、父は私の内におられる」(ヨハ14:10)とか「父と私は一つである」(ヨハ10:30)と言っています。イエスが私たちに与えようとしているのは、この一致です。それは、聖霊の賜物なのです。

それゆえ、霊的生活を生きるということは、イエスが生きていたと同じ御父との交わりを生きることであり、それによって神をこの世に現存させることに他なりません。

(0605)

九里 彰訳

三位一体の神秘

キリスト教の根本は、御父の独り子であり、永遠のみことばであるイエス・キリストが神であり、人であるというところにあります。人間の救いは神人キリストの業にかかっています。真理の霊（ヨハネ14：17）と呼ばれる聖霊は、創造主なる霊であり、聖化する方であり、神です。もちろん御父も神です。ところが、神は唯一である（申命記6：4）ことが大前提にあります。そこで御父、イエス・キリスト、聖霊が神であることをどう説明するか教会は大変苦勞し、一つの実体、三つのペルソナという形で表現するに至りました。

これを理解することは容易ではありません。神秘といわれる所以です。三位は相互に内在し、働きにおいて一つであります。本質・実体において一つであるものの、関係において三者です。このように言ってもさっぱりぴんと来ない人が多いと思います。要理の勉強で三位一体という言葉を知っても、その後の信仰生活で三位一体はほとんど意識されていないのではないのでしょうか。

こう考えると少しわかりやすくなるかもしれませんが、父、子、聖霊という主体が三つあり、意志はひとつであると考えます。実体、ペルソナを現代風に言い換えればこうなります。これは言ってみれば、私がすなわちあなたであり、あなたがすなわち私なのということになります。つまり相手の意識を主体的に自分でも体験することです。これは愛し合う人間同士のことを考えればある程度想像がつくでしょう。夫婦でも、親子でも深く愛し合っている者同士は、相手の考えていることがわかるつもりになります。これは人間同士では、悲しいことに多くの場合錯覚なのですが、神の中にあっては現実のことなのです。愛し合うもの同士は一つの共同の経験を共有するものですが、御父と御子は聖霊を発出するという共同の経験を持ちます。これは夫婦の間に子供ができることに相当します。

三位の間には相互に愛し合う者同士の完全な一致があります。これは人間の間の愛を考えることによってある程度想像がつかます。しかしながら人間同士の間の愛は他者の間の愛です。どんなに親しい親子でも、子供は親から独立した一つの人格です。ところが神の中での相互愛は、一つの神の中でのことです。愛は、対象として自分とは別の他者を必要とします。ところが神においては本来他者の間のことが、内部であるのです。つまり神は、他者との交わりを内部に有するのです。これは人間的に言えばまったくの矛盾です。しかし、三つの主体がありながら意志が一つであるということの論理的帰結です。

愛は他者を求めます。自己のうちに完全な相互愛を持つ神は、自己の中だけで満足なさいませんでした。自分の中から出て、完全な愛の交わりに人間をも入れようとなさり、永遠のみことばが人となりました。受肉は三位一体の神に最も相応しいものだったのでした。

三位一体は信仰生活の付属物ではなく、要です。

（新井）

キリストの聖体

「イエスは渇きを満たす全き食物」

ルカ． 9：11-17

世界の幾多の地で人々は飢えています。しかし、その飢餓よりも渇望の方がより大きなことがらです。あまたの不平等がはびこるこの世界で、私たちは正義に飢えています。戦争やテロが日常的に起きている世界で、平和に飢え渴いているのです。皆が相互理解と愛、そして友情を求めています。皆ふさわしく健やかに成長することを熱望しています。

靈的な糧をも求めています。この靈的なものに対する渇望こそ、あらゆる渇きの中でも最も深いものです。今日のキリストの血と肉との饗宴は、聖体拝領の秘蹟において甦られたキリストが、私たちとまさに共にいてくださることへの祝宴そのものです。今日の朗読箇所は、この「食物」すなわちご聖体へと心を向けさせます。それは人々の物質的飢餓、知的覚醒・精神的成長に対する渇望を満たす以上のものです。

家族と家で食事を共にするとき、私たちは他のどんな物を分け合うよりも、より親密な仲になることができます。友人たちを食事に心からもてなすとき、あるいは友人にもてなされるとき、そこには親密になるチャンスがあります。その他のどんなときよりも親密になれる機会なのです。聖体拝領によって、神はそれと同じ機会を与えてくださっています。親密さ、一致、また神によってもたらされる恵み、神ご自身の遍在とともに。

イエスは次のように言っているかのようです。「私のことを忘れないでいなさい。あなたの前で語り、行ったことを覚えていなさい。私の愛を忘れないで。あなたのすべてに私が希望していること、私の持っているすべて—まさにこの血と肉—を与えつづけているのと同じくらいあなたを愛していることを。」ご聖体のほかに、平和と正義、また愛に対する飢え渇きを十二分に満たすものは何もないのです。

(Beatrice)

年間第 12 主日

「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、私のために命を失う者は、それを救うのである。」(ルカ 9 : 24)

人は自分の命が一番かわいいものです。この命に対する執着を超え、自分自身を乗り越えていくことは宗教の眼目ともいえます。仏教でも「百尺竿頭なお一步を進む」とか「大死一番絶後に甦る」とか言い、自分の命に対する執着を超えることを説きます。キリストの教えとよく似ています。しかし、一つ決定的に違うところがあります。キリスト者が自分の命を失うのはキリストのため、福音のためであることです。

キリストは道です。キリストは命です。キリストの中に本当の私の命があります。つまり、心からキリストに忠実に従うとき私たちは本当の自分となるのです。キリストは今も生きておられます。2000年前のパレスチナに地上での生を送った主は今も生きておられます。生きて私たちに語りかけ、働きつづけています。キリストを信じるものはこの生きておられるキリスト、人格としてのキリストに出会うのです。キリストは神秘体の中に、人々の中に、困っている人の中にいます。キリストは出来事を通して私たちに語りかけています。キリストはわたしたちの貧しい祈りに答え、魂の深みにおいて語りかけてくださいます。キリストに出会えることはキリスト者の特権です。キリストを受け入れ信じるということは、キリストについての説明を理解することとは違います。生きて働いておられるキリストに出会うことです。

キリストは私たち一人一人の人生の主です。キリストが道であるとは、キリストが唯一の道であるということです(ヨハネ 14 : 6の「私は道である」の道には定冠詞がついています)。たくさんある道(手段、方法)の一つとしてあるのではなく、正にこれしかないというあり方で存在する唯一の道なのです。この道を歩むように私たちは招かれています。

私は最初、キリストを一つの道、手段、方法と考えていました。99%は自分の力で人生を切り拓いていけるが、残りの1%は自分の力以外のものに頼るしかない、それがたまたま出会ったキリストの力であると思っていました。心の平安という自分の力では得にくいものだけを信仰に求めていたのです。それ以外は別に宗教の助けを必要としないと感じていました。私は自分の命を救おうとしていたわけです。ところが実際は私の思惑通りにいくどころかまったく正反対でした。洗礼を受ける前は比較的順調だった私の人生が、世間的には失敗と敗北の連続になってしまい、まったく自信を喪失して生きていく希望も失いかけてしまいました。主の不思議な助けと導きにより長い間かけてようやくわかったのですが、主は私に世間で評価されるような成功をさせることをお望みでなく、ただご自分が私にさせたいことをさせたいだけなのです。それが主の望みであり、私はそれに従いさえすればよいのです。これに気づき、私の魂は安らぎと喜びを得ました。私は「発見」の喜びを味わったのですが、よく考えてみると何度も聖書で読んでいたことなのです。今日のみことばがそうです。苦笑してしまいました。

キリストのゆえに命を失うほど信仰を核として一生を生きるのは、何も司祭、修道者に限ったことではありません。私などよりはるかに深い信仰を生きている信徒の方を何人も知っています。こういう人たちと出会うことは本当に大きな喜びです。

(新井)

年間第13主日

「振り返らない秘訣、それはイエスに目を注ぎつづけること」

ルカ、9：51-62

今日読まれる福音で、イエスはそこに至ること・死ぬことに招いておられます。決断のときです。神のメッセージは招待です。通常のことではなく、きわめて特別なことがらに参与する呼びかけです。神が無理やりに私たちを引き入れられるのではありません。それに応えるか否かは、こちらの自由意志です。洗礼を受けたときから私たちはキリストの弟子です。教義上、それは事実です。しかし実際、私たちのどれほどが真にキリストの弟子たりえているのでしょうか。毎日の暮らし、二十四時間常に本当にキリストの弟子でしょうか。この問いかけに対してイエスと言える人はどれくらいなのでしょう。

理にかなった神の求めがいかなるものか、また神の要求の一つひとつが（神にではなく）私達自身にどれほど恩恵をもたらすことかを私たちが悟るなら、その呼びかけに惜しみなく応えようとするのでしょう。神が私たちを必要としているのではなく、私たちが神を必要としています。日常の祈りに私たちは少しの時間を費やします。貧しい隣人に励ましの言葉をかけ、手助けしようとしています。そうです。私たちは皆もっとキリストを見せ、喜びのうちに誠心誠意キリストに従うことができるはずなのです。キリスト者としてのあぜ道を作る間、私たちは後ろを振り返らないのです。

今日、私たちには決意を妨げるより多くの娯楽があります。ごく簡単に行けるところ、テレビ、そのほかの楽しみのようなほんのちょっとした愚かなことです。行楽のための場所を探しつづけ、黙想のための機会はより少ないのです。とはいえ、わたしたちは必ずしも、安全や家族への情愛のために、犠牲を捧げることに呼ばれているわけではありません。イエスは今日の礼拝の中で私たちに再度呼びかけておられます。喜びのうちに自由にイエスに従うことから私たちをためらわせる愛情かどうかを問うておられます。

(Beatrice)

《病者の塗油の秘跡》(2)

[この秘跡を受けることができる人]

前回、病者の塗油の秘跡の意味について簡単にみました。今回は、この秘跡はどんな人が受けることができるのかを見てみたいと思います。

・生命の危険があるような重篤な人

従来からの秘跡と同様に末期ガンやけがなどで、危篤状態にある人です。

・高齢者

何歳から高齢者かという定義付けは難しいですが、教会によっては敬老のお祝い(概ね70～75歳以上)の時にこの秘跡を授けたりしています。

・その他

全身麻酔を伴うような大きな手術の前や出産の時です。これは、手術や出産によって、命の危険にさらされることがあるからです。そのために、無事に手術や出産が終わるように神様に助けを祈り求めるのです。

このようにこの秘跡を受けることができる機会は多いものです。この秘跡は何度でも受けることができるので、できるならば、まずはその人に意識のあるうちに一度この秘跡を受け、その後いよいよ危なくなった時にもう一度受けることが望まれます。なぜなら、意識のない時に受けて何をされているのか本人がわからないよりも本人が意識的にこの秘跡を受けて神様の助けを願う方が、より効果的だからです。ですから、遠慮なくできるだけ早めに司祭に相談する方が良いでしょう。また、この秘跡は洗礼を受けている人ならば誰でも受けることができるので、幼い子供であっても受けることができます。

[塗油]

油は、司教様が司式する聖香油のミサの中で行われた油を通常使用します。そして、病人の額と両手に塗油します。その時に司祭は、「この聖なる塗油により、いつくしみ深い主・キリストが聖霊の恵みであなたを助け、罪から解放してあなたを救い起き上がらせてくださいますように。アーメン。」と唱えます。このように、この秘跡は、死へ招くものではなく、再び健康を取り戻し立ち上がることを祈る秘跡です。

二回にわたり、「病者の塗油の秘跡」についてみてきましたが、まずは気軽に司祭に相談し、できるだけ早めに受けることをお勧めします。前回も言いましたが、この秘跡よりも聖体拝領の方が大切なので、同時にご聖体を拝領することも勧められます。そしてまたその時に、ゆるしの秘跡を受けることも教会は勧めています。

…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

4. トラパニの聖アルベルト (1307年没)

アルベルト・デグリ・アバッチは、13世紀にシチリアのトラパニに生まれた。カルメル会に入会し、司祭に叙階された後、すぐに彼は説教と奇跡のゆえに有名になった。メシナでは、祈りによって飢饉を終わらせることができ、また、天の元后聖マリアが神なる御子と共に彼に出現し、彼は幼子イエスをその手に抱くことをゆるされた。その出現の時、彼は自分がいつ死ぬかを知らされ、このことを彼は修道院の修友に打ち明けている。1296年にシチリアの管区長になり、清さと祈りによって高い評価を得、メシナで亡くなった。その年はおそらく1307年であると思われる。



聖アルベルトの腕の中に幼子イエスを渡される聖母

祈り

[メシナの飢饉の際、食料が与えられるよう祈り、聴き入れられた]

おお、王の王である方、主なる神、すべての人類の父である方よ、あなたは、あなたによりすぎるものを誰も拒まれません。天の高みから、あなたに信頼する人々をご覧ください。彼らは、あなたの慈しみに信頼を置いています。どうか彼らの祈りから目をそむけず、満ちあふれる祝福の中からお答えください。あなたは、ここにいる男性、女性、子供たちを見ておられます！ 彼らは飢えているのです！ 彼らは、日毎の糧を与えてくださるよう、あなたに願っています。彼らに、それをお与えください。あなたは、砂漠の中でおびたしい人数の人々に食物をお与えになられたのですから。あなたの救いの力強い御腕を、彼らに差し伸べてください。この町は、恐怖で震えています。彼らを力づけてください。この町は、ほとんど死にかけの状態です。この町を生き返らせてください。あなたの助けがなければ、生き延びることを望むことはできません。何者も、この悲惨からこの町を救い出すことはできないのです。不運な人々！ 彼らは、数多くの戦士たちや軍隊の力に頼ることはできません。人の助けに頼るように呼ばれてはいないのです。この人々は、あなたの御名に希望を持ってなくなっています。彼らは死にかけています。彼らを助けに来てください。彼らが絶望に屈することなく、この靈魂たちが失われ、サタンが勝利を得ることのないように！

おお、私の神よ！ あなたが人類を創造されたということは、あなたとあなたの畏れ多い御力が言われたのではないのでしょうか。あなたの栄光と永遠のいのちの幸福にあずかるよう私たちを呼ばれたのは、あなたのいつくしみの実りなのではないのでしょうか。原罪によって私たちが死の苦しみを与えられた時、私たちの信仰とあなたの深いあわれみによって、私たちがあなたに一致させるため、御子の血によって私たちを買い戻すことは、善いお方であるあなたにとって喜びだったのではないのでしょうか。あなたは、恥ずべき原罪から、私たちを買い戻していただきました。あなたの栄光の一部で、私たちの不名誉を覆ってくださいました。そして今ここに、あなたがお造りになった被造物が困難の中にあります。あなたはその御業によって、手足と関節を柔軟にされ、死すべき靈魂の運命を崇高な美で高められました。そして、サタンの攻撃！ 憎しみと高慢の父が、あなたがお造りになったこの体を傷つけるために嫉妬をもたらしたのです。ですから、主よ、どうかあなたの御業を再び行ってください！ どうか、この盲目を癒してください。あなたの御力が再び崇められ、敵の悪意が打ち破られるように。

(聖人はこの祈りを三度繰り返した。不幸にあった母親が帰宅すると、息子はすでに癒され、彼女の方に急いでやって来ようとしていた！)

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(浜田裕子訳・編)

ある記事を読んで

二年位前の朝日新聞に、明治大学名誉教授哲学者中村雄二郎氏が、「人類結ぶ新しい哲学を」というタイトルで、哲学者の立場から見た記事が掲載されていました。とても興味を感じ、共鳴したのです。

彼は対話だけでは問題解決は困難であるという論文の結びに「民族や宗教の違いを超えて人類を結びつける新しい哲学が、今再び求められている。危機を乗り切るためには、人類のすべての知恵を動員する必要がある」と。

これが哲学者中村雄二郎氏の切実なる叫びとなっております。

また彼は、『悪の哲学ノート』という本に書きましたが、善はみな似ているけれど、悪はいろんな顔をして現れる。我々の中にも潜んでいる。見わけるのは難しい。すべての悪を一掃したつもりが、今度はもっと大きな悪を引き寄せてしまうこともある」と。

「善はみな似ているけれど、悪はいろんな顔で現れる」ということは、つまりみんなの心の奥底に愛の泉があり、愛し合って生きるために作られた人間であるのに、心の自由を失って、それができないゆえに、ますます複雑化し、人間の知恵ではどうにもならない今のもつれとなったのかもしれない。事の重大さを見た氏は、「人類のすべての知恵を動員する必要がある」と叫んでおられます。

そして「異質な存在は貴重」という見出しで書かれている中に、

「人間にとって重要なのは、自分とは違う価値観を持つ他者の存在です。異質な他者によってはじめて見えなかった自分の姿が見えてくる……」、そしてまた9月11日の惨事を、「まるで遠い古代の神話の世界で起きている光景のように見える」と言っておられます。ここを読んだ時、創世記の物語を思い出し黙想したことです。人祖が神の命に従わず蛇にそそのかされて神のように善悪を知る者になろうと手をさしのべて、禁じられた木の実を食べたその結果、自由を失って、人間がどうしようなく悪にかたむく者となったというアダム・エワの物語です。

この物語は単なるおとぎ話ではなく、アダムとエワから始まった傲慢心による不従順は、次から次へと悪を生み出し、度を重ねて、もつれにもつれ、複雑化のきわみに至ってしまった今の現実を前にして、心ある立派な方々さえ手のほどこしようのなさに、「人類のすべての知恵を動員する必要がある」と呼びかけておられます。これに答えてふと思ったのですが、一人ひとりの心の中にある愛の泉が掘り出され、一人ひとりの心がうるおい満たされるなら、だんだんと平和が実現するのではないのでしょうか。

(山口女子カルメル会)

Sr. イエスのマリア・アスタ

空よ、自由の砦よ。

蛭田 幼一

小鳥よ、おまえはなぜ囀るのか。風よ、おまえはなぜ吹きわたるのか。日よ、なぜ照るのか。空よ、自由の砦よ。木々よ、おまえはなぜ緑の葉をつけるのか。花よ、おまえはなぜ色とりどりに咲くのか。小川よ、なぜしずかなせせらぎをたてるのか。地よ、恵みの牧場よ。なぜ鳩は傷つき、クワガタの幼虫は生まれるのか。なぜ愛くるしい子猫は死に、そしていまでも優しい笛の音が聞こえてくるのか。神よ、天地万物の神よ。



にが くすり
苦い薬

Sr. 熊田照子

(お告げのフランシスコ姉妹会)

人は体調をくずして、どこか悪くなると、普通、医者に行き、処方された薬をのむ、というプロセスをたどります。薬が少々ヘンな味がしても、大人なら「この気分の悪さがとれるなら、何のこれしきのこと」とばかり目をつぶり、多量の水でゴマかして吞んでしまいます。これは良くなりた^いい、あの不快感から脱却して、早く日常に復帰した^いからなのです。それというのも、処方してくれた医者への信頼、薬への信頼があるからでしょう。もしそこに自分の考えがあって、「あの医者は信頼できない、日常言っていることや、やっていることが納得できない」とか、「学識、経験も浅い若輩だから危険だ。」などと思っていたら、どうして自分にとってワケの分らない薬を吞み続けるでしょう。とっくの昔にそれを止めて、自分がこれだと信じる、しかも自分にとって吞み易い薬を吞むはずです。

次に子供の場合を考えてみましょう。風邪をひいて咳がひどい、熱が高く、苦しい、一寸したことに不機嫌、そして母親から与えられた薬を吞む時はワアワア泣いて拒否します。お母さんが「早くよくなるように」と一心に思って吞ませるのに、子供はそんなことは露知らず、自分にイヤなものはイヤとして拒否します。

ここで話は一転するのですが、私たちキリスト者は毎日の生活を続けていると、その中に展開される事柄は、必ずしも甘いものだけではありません。イヤなこと、つらいことは遠慮なく襲ってきます。その時、人はどのようにしてこの薬を受け取るのでしょうか？ある人は次のように反応するかも知れません。

- ① 神さま、どうして私にばかり苦しみが来るのですか？どうぞ助けて下さい。
 - ② どうぞこの苦しみを取り去って下さい。私は死にそうです。
 - ③ 神さま、あの人がってひどいことをしたのに、^{ひょうひょう}飄々としている、どうして私だけが苦しまなければならないのですか？いつまで？
- 祈りの内容はいろいろあります。でも気づかないのですが、実はその多く

が自分中心であったり、自分よがりの診断をしていたりするのです。

上記のように医者と患者、母親と子供の関係では、「治るためには、苦くともこの薬を呑まなければダメなんだよ」という知恵のある大人の考えが分からず、子供は体からくる不快さだけでワメイテいます。全部自己中心なのです。

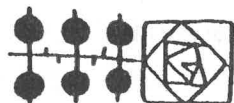
このようにしてイエスの受難を思い出しましょう。イエスは、分からない人間から受けた苦い水をどのような心で受け止めたのでしょうか。ゲッセマニの祈りは「父よ、できることなら、この杯を私から過ぎ去らせて下さい。しかし私の願いどおりではなく、み心のままに。」……更に二度目に向こうに行って祈られました。「父よ、私が飲まない限り、この杯が過ぎ去らないのであれば、あなたのみ心が行われますように。」マタイ26、39-42、マルコ14、32-42、ルカ22、39-46、

「キリストは苦しみの杯を取り去って下さい」とおん父に祈りました。しかし次に自分の望みではなく、おん父のみ心のままに、と祈られました。結局、杯は取り去られず、最後の一滴に至るまで飲み干されたのです。全部飲み干すことが、おん父のみ心でした。それが十字架の死だったのです。

キリストの弟子であるはずの私は、自分にとってあまりにも苦すぎる杯を途中で give up(あきらめて)してしまい、子供の薬と同じで横を向いてしまうことが多々ありました。キリストと共に「最後の一滴まで飲み干す」なかに、「キリストに従う」という、ほんとうの意味があり、「みころのままに」「み旨のままに」というキリスト、そしてその母マリアのおん父の愛への絶対委託の神秘が、なかなか分かりませんでした。

少しそれが分かるようになった時、まるで今日初めて気づいたかのように、「仰せのごとく我になれかし」という、自分の会「お告げの姉妹会」の精神に、改めて気づいた私でした。

いのちの言葉



愛の掟



あなたがたは、わたしを愛しているならば、
わたしの掟を守る。

(ヨハネ14・15)

最後の晩餐でのことです。イエスは、弟子たちを残して、御父のもとにお帰りになる前に、「愛」という最も堅固な要によって、彼らとご自身を、また彼ら同士を強く結ぶことを望まれました。イエスは、「自分の命を与える」(*1)までの最大の愛で、弟子たちを「この上なく愛し抜かれ」(*2)、彼らもそれにこたえて、同じ愛でご自分を愛するよう、お望みになりました。

ここでイエスが求めておられる愛は、単なる感情ではなく、彼の望みを果たすことを意味します。イエスの望みとは、彼の掟の中に示されており、特に、兄弟を愛することと互いに愛し合うことです。これは、イエスにとって本当に大切な真理だったので、最後の話の中で、使徒たちに力強く三度も繰り返し言われたほどでした。「わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である」(*3)、「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る」(*4)、「わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない」(*5)と。

あなたがたは、わたしを愛しているならば、
わたしの掟を守る。

なぜ私たちは、イエスの掟を守らねばならないのでしょうか。神の「似姿」に造られた私たちは、神と個人的、直接的な関係を持てる相手にしていただきました。それは互いに知り合い、愛し合う、友情と交わりとの関係です。

神が私の上に乗っておられる愛のご計画に対して、私が「はい」と答えれば答えるほど、私は本当の自分自身でいられます。

神との関係は、人間にとって必要不可欠なものですから、この関係が一層深く豊かになるにつれ、人は真の意味で自己実現をしていきます。

アブラハムを考えてみましょう。神は、アブラハムが自分の土地を捨て、先のわからぬ道のを歩み始めることや、一人息子を捧げものにすることなど、不可能に思えるようなことを頼まれました。しかし、そのような場合も、アブラハムが神を信頼し、すぐに応じた時にはいつも、彼の前には思いがけぬ展開の未来が示されました。

モーセの場合も同様です。神はシナイ山で、十戒を通してご自分をの望みを示されましたが、モーセがそれにこたえたところから、神の民が生まれました。

イエスも同じです。「わたしの願いではなく、御心のままに行ってください」(*6)とあるように、御父に「はい」と答える姿勢は、イエスの内に完成されました。

イエスに従うとは、最善の形で御父のみ旨を行うことです。これは、イエスご自身が私たちに

示され、率先して生きてくださったことです。

ですからイエスが私たちに残された掟は、私たちが、愛である神の子供として生きるのを助けてくれるものです。彼の掟は、独断的な押し付けでも、上からの強制的な指図でもなく、まして私たちが人間以下の存在にするものではありません。主人が召使に出す命令とも違います。そうではなく、イエスの掟には、私たち一人ひとりの生活に思いをかけてくださる彼の愛が表れています。

**あなたがたは、わたしを愛しているならば、
わたしの掟を守る。**

では、この「いのちの言葉」をどのように生きればいいのでしょうか。

イエスが福音の中で言われること、彼の掟に注意深く耳を傾け、聖霊が一日中私たちにみ言葉を思い出させてくださるようにしましょう。たとえばイエスは、殺さないだけでなく、兄弟に怒りを抱かないように教え、姦通の罪を犯さないだけでなく、他人の妻を望んではならない、と言っておられます。「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬も向けなさい」(*7)、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」(*8)と。

しかし、何よりも実践したいのは、イエスが「ご自分の掟」と呼ばれ、他のあらゆる掟を要約するもの、すなわち互いに愛し合うことです。実際、愛は律法を全うするもの(*9)であり、私たちが歩むよう招かれている「最高の道」(*10)です。

このことを大変よく理解していたのが、パルマ(イタリア)のダリオ・ポルタ神父でした。彼は1996年の聖木曜日に亡くなりました。司祭として最初の数年間、すばらしい形で神と関係を生きたダリオ神父は、後に、隣人一人ひとりの中にイエスを見ることをより深く理解し、福音的な愛を生きることに全力を傾けました。この生き方に忠実であるため、彼は、自分の予定を後回しにして、他の人々に一層心をかけるよう努め、ある日の日記には、こう記すまでに至りました。「最終的に果たしておきたいことはただ一つ、それは兄弟を愛することだとわかりました」(*11)と。

私たちも毎晩、彼のように自分に問いかけてみましょう。「私はいつも兄弟を愛したのだろうか」と。

キアラ・ルービック

*1 ヨハネ15・13

*6 ルカ22・42

*2 ヨハネ13・1

*7 マタイ5・39

*3 ヨハネ14・21

*8 マタイ5・44

*4 ヨハネ14・23

*9 ローマ人への手紙13・10参照

*5 ヨハネ14・24

*10 一コリント人への手紙12・31

*11 ダリオ・ポルタ著 Testimonianza dell'Amore gratuito (無償の愛の証)
パルマ 1996年 p.33

***フォコラーレセンター**

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL.03-5370-6424 FAX.03-5370-3055

E-mail focolare@sa.uno.ne.jp

すず

わたしは、自宅の鍵のキーホルダーに鈴を付けています。鈴を付けていると、靴の中にあっても見つけやすいですし、道で落としても、ちりんと気づかせてくれるので助かります。

最近、ふと、天国の鍵について考えました。天国の鍵とは、神さまとの出会いの扉の鍵のことだと思います。神さまは、何処にでもいて下さるので、きっと天国へ通じる扉の鍵は、世界中至るところに落ちているのでしょうか。

本当は、何気ない日々の生活、色々な人や出来事との出会いの中、あちらこちらに、天国の鍵が落ちているのかもしれない。わたしの自宅の鍵のように、天国の鍵にも鈴がついていてくれたら、どんなに便利だろうなあと思います。日常の何処に天国の鍵が落ちていても、鈴の音が知らせてくれるので、日に何度も神さまと出逢い、日に何度も天国を見出せます。天国の扉の鍵、神様との出会いの扉の鍵に、何とか鈴を付ける方法はないのでしょうか。

やっぱり、お祈りをするのが、一番、手っ取り早いかもしれないと思います。

『神さま、あなたが、わたしの今日という一日の、あちらこちらに贈って下さっている、たくさんの天国の鍵を見つけやすいように、どうか、鍵の全てに鈴をつけて下さい・・・アーメン』

そうしたら、きっと、小さなイエス様が来て下さり、たくさんの天国の鍵の一つ一つに、小さなイエス様は、小さな手で鈴を結びつけて下さると信じたいです。

今日一日に、神様が私達に贈って下さった、たくさんの天国の鍵を、どんどん拾って自分のポケットに入れたら、一日の終わりには、私達のポケットは鈴の付いた鍵で一杯になるでしょう。そして、あなたやわたしが歩く度に、ポケットの中の、沢山の鍵に付けられた沢山の鈴たちが、一斉にりりんと、澄んだ音で歌うでしょう。その時、あなたとわたしもまた、神の手によって、地上に贈られた「生きた天国の鍵」となっていくのかもしれない。

丸山知佳子

“LA BELLEZZA” (Aforismi)

Quel giorno la Bellezza faceva tutt'uno
il mare col cielo e la spiaggia col sole
mentre un uomo ringraziava Dio.

その日、美は全ての物を一つにした
海は空と、浜辺は太陽と
或る男が神に感謝をしている間に。

La bellezza è la bella musica
per chi sa ascoltare con gli occhi
le note della vita.

美とは、生命の音を
目で聴く事が出来る人の為の
素晴らしい音楽である。

(“美に関するアフォリズム”から)

Marco Maffezzoli (マルコ・マッフエッツォーリ ; 浅野菜生子訳)

カルメル会の出版物のご案内

雑誌「カルメル」No.312 (季刊)

2004年春号 「今日の靈性」

聖体＝キリストの過越の神秘(59)・・・高橋重幸

十字架の聖ヨハネのとらえた「自由と解放」(2)・・・九里 彰

イエズス 私の最愛のお方 思い出してください(10)・・・P.・アロイジオ

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(4)・・・伊従信子

私の祈り一気が散る中でどう祈るか・・・J・マッカーフリー

三位一体のエリザベット(5)・・・伊従信子

音を求め続けて・・・森みさ

出会いー修道生活きのうきょうー(6)・・・奥村一郎

年5冊(春夏秋冬号+特集号)会員頒布価格：3000円(送料込み)

郵便振替：00190-4-195457

跣足カルメル修道会

(どなたでもご購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田：

TEL03(5706)8356まで。)

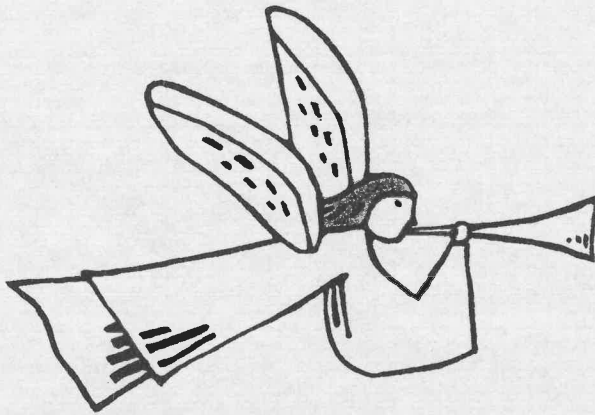
「カリットへの旅ーカルメル会の歴史」

P・T・ロアバック著、女子カルメル会訳、男子カルメル会監修、
2003年、サンパウロ、定価(本体2500円+税)。

「愛するための自由ー十字架の聖ヨハネ入門ー」

N・カミン著。山口女子カルメル会訳、2000年、ドン・ボスコ
社、定価(本体1500円+税)。

諸々の企画案内



ノートルダム・ド・ヴィ

風 の 家

スズランハウス

瞑想 の 家

三位一体の聖体宣教女会

真命山靈性交流センター

マリアの御心会

心のいほり、内観瞑想センター

リーゼンフバー講座

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院

聖心会黙想の家

京都教区聖書委員会（聖書深読）

諸所の企画についてのご紹介

ノートルダム・ド・ヴィ

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247
Fax(03)3594-2254

* 祈りの集い・いのちの泉へ

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

日時：6月5日 (土) いのちのパン：聖体に養われて

講話：伊従信子・片山はるひ (ノートルダム・ド・ヴィ会員)

時間：午後2時から (プログラム、修了時間は日によって違いますので
事前にお問い合わせ下さい)

問い合わせ・申し込み

T e l (0 3) 3 5 9 4 - 2 2 4 7

(電話は夕方6時～夜9の間をお願いします)

F a x (0 3) 3 5 9 4 - 2 2 5 4

(F a x 送信は何時でも結構です) 又は郵便で

風 の 家

指 導：井上 洋治 師 (東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

* 新住所：〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

ズランハウス : 責任者・井口 貴志

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細については電話で問い合わせして下さい。

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222

瞑想の家 東 光 庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師 (神言会)

* 詳細は電話で問い合わせして下さい。

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL. 042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会：2004年

「聖書で祈る」： 指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

2004. 2月21日（土）5:30pm～22（日）4:00pm 了

6月26日（土）5:30pm～27（日）4:00pm

11月27日（土）" 28（日）"

2005. 2月26日（土）" 27（日）"

祈りの集い：神が下さる私の道

対象：男・女青年信徒

2004. 2月8日（日）10:00am～4:00pm 了

6月5日（土）10:00am～4:00pm

11月20日（日）10:00am～4:00pm

2005. 2月8日（土）" "

黙想会：

*対象：一般信徒（お弁当持参）

2004. 2月9日（月）10:00am～4:00pm 了

6月4日（金）10:00am～4:00pm

11月19日（土）10:00am～4:00pm

2005. 2月4日（金）10:00am～4:00pm

年の黙想会： 指導：瀬戸勝介 師（イエズス会） *対象、修道女

2004. 8月16日（月）5:30pm～8月25日 朝食後解散

キリスト教講座 カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日 10:00am～11:30am

十字架の使徒職の集い *対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第1グループ 毎月第2金曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

第2グループ 毎月第1木曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

両グループ*司祭のために聖体礼拝を捧げます(1:30Pm～2:00Pm)

マリアの御心会

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2

J R信濃町駅下車徒歩2分

*問い合わせ・申し込み：TEL. 03-3351-0297 : FAX. 03-3353-8089

E-mail midorif@jpc.apc-org

「来て・見なさい」プログラム

結婚・修道生活・独身生活を選定したい方。

2004年度	テーマ	指導者
6/27 (日)	霊操による祈り一日 (上石神委井黙想の家)	瀬本正之師
7/25 (日)	信徒の宣教	竹内麟太郎師
8/6 (日)	キリストの生き方とわたしの生き方 (長野県富士見高原黙想の家)	栄 隆一師
9/26 (日)	一致・交わり・共同体	松井紀直師
10/24 (日)	マリアの7つのことば	ヌエル・エルナンデス師
11/28 (日)	霊の識別	ティエリ・j・ロボアム師
12/19 (日)	星に導かれて	ジャン・クロード・ホレリッヒ師
2005年度		
1/23 (日)	聖体に現存するキリスト	森 一弘司教
2/20 (日)	わたしの内に、巣くう社会の歪み	下川雅嗣師
3/20 (日)	毎日の生活の中に神を探す	加藤信也師

『心のいほり』

『内観瞑想センター』代表 藤原直達神父 (大阪教区司祭)

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

*TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

*活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。

*希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。

*2004.

- 6/2 (水) 2時~6/8 (火) 2時まで横浜・戸塚
6/20 (日) 2時~6/26 (土) 2時まで兵庫・宝塚売布
7/5 (月) 2時~7/11 (日) 2時まで横浜・戸塚
8/1 (日) 2時~8/7 (土) 2時まで京都・竜安寺
8/16 (月) 2時~8/22 (日) 2時まで兵庫・宝塚売布
9/2 (木) 2時~9/8 (水) 2時まで横浜・戸塚
9/19 (日) 2時~9/25 (土) 2時まで京都・竜安寺
10/7 (木) 2時~10/13 (水) 2時まで横浜・戸塚
10/17 (日) 2時~10/23 (土) 2時まで兵庫・宝塚売布

聖心会裾野修道院ヴィラ・フジ（黙想の家）

〒410-1126 静岡県裾野市桃園 198

TEL: 055-992-2120

FAX: 055-992-2165

A. 個人指導の黙想会・・・(初日夕食6時より最終日の朝食まで)
(2-3日だけの参加も可能)

①2004年7月1日(木)～7月10日(土) Fr. イシドロ リバス (S.J.)
Fr. 村上芳隆 (O.F.M.) Sr.交野

②2004年9月1日(水)～9月10日(金) Fr.アロジオ カンガス (S.J.)
Sr.交野

B. 2泊3日の静修

2004年4月28日(水)午後5時～4月30日(金) 了

Fr.松本秀友(京都教区) Sr.交野

A,Bの申込先: 〒150-0012

東京都渋谷区広尾4-3-1 聖心会明けの星修道院

Sr.交野君子 Tel,Fax 03-3409-1937

往復はがきに、住所、氏名、電話番号をお書きの上、何日の何食～何日の何食までと明記してください。

C. 聖書による個人指導の黙想会

①2004年1月26日(月)～2月4日(水) Fr.松本秀友 Srs.吹田、長谷川 了

②2004年9月10日(金)～9月19日(日) 司祭、Srs.吹田、長谷川

③2005年1月24日(月)～2月2日(水) 司祭、Srs.吹田、長谷川

Cの申込先: 〒108-0072

東京都港区白金4-11-1 聖心会レターレ修道院

Sr.吹田 眞佐子 Tel 03-3446-1270

Fax. 03-3441-0454

〒455-0872

名古屋市港区西蟹田1833 聖心会名古屋修道院

Sr.長谷川和子 Tel 052-302-4385

Fax. 052-309-1670

D一般黙想 テーマ：自分探し（2回シリーズ）

①2004年11月16日（火）（お弁当持参で、11時集合）～18日（木）昼食まで

Fr.近藤（心のともし火） Sr.長谷川

②2005年春に予定

Dの申込先：〒455-0872

名古屋市港区西蟹田1833聖心会名古屋修道院

Sr.長谷川和子 Tel.052-302-3485

Fax052-309-1670

E一般黙想 テーマ：小さな事から自分を変えよう。

——新カテキズムを学び祈ろう——

①2004年4月17日（土）11時半～4月18日（日）正午解散（昼食なし） 了

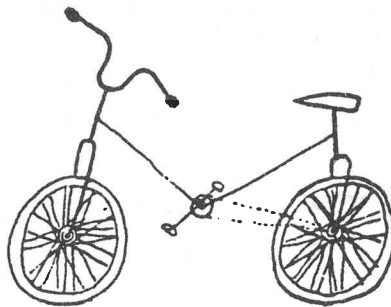
②2004年12月3日（金）11時半～12月4日（土）正午解散（昼食なし）

Eの申込先：〒248-0024

鎌倉市稲村ガ崎3の6の47

早川春日

葉書きで参加する月・日・住所・電話番号・名前を明記してください。



CWC (キリスト者婦人の集い)

講師：九里 彰 神父 (カルメル会)

テーマ：聖書に登場する女性の霊性

日程：2004,

5/11. 火 (了) 7/13. 火 9/28. 火

10/12. 火 12/14. 火

時間：午前10:30～

会場：真生会館第一会議室

これまでのテーマは「アブラハムの2人の妻」「マルタとマリア」
「ベタニアの女」「サマリアの女」「マリアの受胎告知」でした。

1日黙想会 テーマ「イエスのみ心を味わう」

日時：2004年6月6日(日) 10:00～16:00

場所：ノートルダム調布修道院

指導者：英 隆一朗神父(イエズス会) 対象：20代30代の未婚女性

参加費：1000円 持参品：聖書、筆記具

締切：6月5日(土)

コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

場所：東京都調布市下石原3-55-1

TEL: 0424-82-2012

FAX: 0424-82-2163

E-mail: mariaprovince@tokyo.email.ne.jp

担当：Sr.山本三千子 Sr.池田洋子

* 当道院は新宿より京王線で調布駅下車。南口から徒歩で20分。
タクシーで5分。下石原3丁目マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です。

真命山の靈性



陽の昇るところから
陽の沈むところまで **祈り**

静けさ 沈黙の中に神の
まさを聞こう

信仰体験
を分かち **交わり**

自然 神はすべてを造り、
人の手に委ねられ

2004年度のご案内

祈りの集い

テーマ 聖人の祈りに学ぶ

- 1月 8日 聖トマス・アクイナス
- 2月 12日 日本の殉教者
- 3月 11日 十字架の聖パウロ
- 4月 22日 シエナの聖カタリナ
- 5月 13日 聖アルフォンソ
- 6月 10日 聖マルガリタ・マリア
と聖ファウスティナ
- 7月 8日 聖ベネディクト
- 9月 9日 聖フランシスコ
サレシオ
- 10月 14日 アビラの聖テレジア
- 11月 11日 福者三位一体の
エリサベツ
- 12月 9日 十字架の聖ヨハネ

黙想会

座禅と十字架の神秘

日時 3月26日(金) 17:00から
28日(日) 13:00まで

自然の中でキリストの復活を祝う

日時 4月23日(金) 17:00から
25日(日) 13:00まで

10日間の黙想

日本の伝統文化に基づく靈性

日時 8月4日(水) 17:00から
12日(木) 13:00まで

研究会

キリスト者とは他宗教との対話その真意

日時 4月30日(金) 17:00から
5月2日(日) 13:00まで

第6回 諸宗教平和の祈りの会

日時 2004年10月3日(日)
14:00~17:00

尚、個人、グループで黙想会、研修会など
ができますので、ご相談ください
宿泊は10名位迄可能です。

申し込み

〒 865-0133

熊本県玉名郡菊水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座 2004~2005年

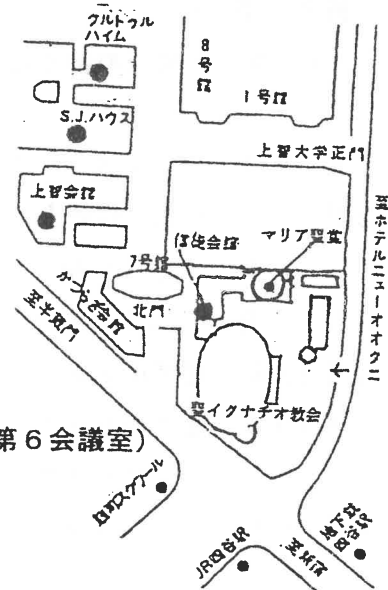
日時 毎週金曜日 18時45分~20時30分
 場所 聖イグナチオ教会 (四谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

各回のテーマ

- 4/ 2 信仰の道—人生の意味を問う
- 4/ 9 人生の道しるべ—聖書に信仰を求める理性
- 4/10 ミサ (18時、上智会館3階)
- 4/16 聖書の人間像—人間の現状と使命
- 4/23 旧約聖書の神体験—聞くことと見ること
- 4/30 ○休み
- 5/ 7 神認識の道—理性と経験を通して
- 5/14 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
- 5/21 歴史と信仰—神と人間との出会い
- 5/28 新約聖書の神理解—主なる父
- 6/ 4 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
- 6/ 5-6 ●黙想会
- 6/11 救い主の役割—人類の待望
- 6/18 神の国—イエスの告げるメッセージ
- 6/25 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
- 7/ 2 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
- 7/ 9 イエスは誰か—イエスの自己理解
- 7/16 最後の晩餐—自分を与えるイエス
- 7/23 イエスの受難—その史実と意図
- 7/24 ミサ (14時、上智大学内 Kulturlaube 2階)
- 7/30 イエスの死—その救済的意味
- 8/ 6、13 ○休み
- 8/20 イエスの復活—今に生きるイエス
- 8/22-29 ●通う霊操 (18-21時)
- 8/27 聖書のイエス像—ヨハネの見たイエス
- 9/ 3 聖霊—神の愛に導かれる
- 9/10 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる
- 9/17 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
- 9/18-20 ●黙想会
- 9/24 教会の成立と意味—イエスを中心に集う
- 10/ 1 人間としてのイエス—新しい人間像の基礎付け
- 10/ 8 御子としてのイエス—イエスの神との関係
- 10/15 父と子と聖霊—神の生命に与える
- 10/22 信仰の決断—支えられて生きる
- 10/29 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
- 11/ 5 自己実現と神の意志—生き方の規範
- 11/12 人間の弱さ—罪とは何か
- 11/19 恵みとゆるし—神の憐れみを受ける
- 11/26 愛の心—キリスト教の本質
- 11/27-28 ●黙想会
- 12/ 3 隣人愛—他人のうちにイエスに出会う
- 12/10 希望を持つ勇氣—未来に向かって歩む
- 12/17 霊の動き—福音による生き方
- 12/18 クリスマスのミサとパーティ (上智会館5階、第6会議室)
- 12/23 ミサ (14時、上智大学内 Kulturlaube 2階)
- 1/ 7 聖書と教会—信仰の基盤になる言葉
- 1/14 秘跡と教会生活—毎日を養う信仰
- 1/21 神の言葉—神との日常的な対話と黙想の仕方
- 1/28 結婚と独身—愛の道
- 2/ 4 信徒・司祭・修道者—誰もが召されている
- 2/18 仕事という人間の課題—社会に寄与して働く
- 2/25 人間の苦悩—悪とは何のためか
- 3/ 4 死—その実現と克服
- 3/5-6 ●黙想会
- 3/11 人生の完成—神の内に生きる
- 3/18 聖母マリア—信じる者の原型
- 3/25 ○休み
- 3/26 復活祭のミサ (18時、上智会館3階)



上智大学内 Kulturlaube 2階



新刊紹介

K・リーゼンフーバー著

『超越に貫かれた人間——宗教哲学の基礎づけ——』

長崎純心レクチャーズ・第6回、創文社、2004年4月6日刊行、300頁、2,500円

本書は宗教を人間の本質に根づき、その最高の発展を成している現象として捉え、宗教性の根拠と構造を人間論的に探究する。三つの講義から成る。①人間の尊厳と認識活動に含まれる超越との根本的關係。②聖書的信仰を背景に日常的諸経験（意義の発見・現実の承認・芸術的創造性・信頼・責任・時間における呼びかけ）に見られる萌芽的宗教性の形と内容。③宗教的行為の成立・特徴・諸形態（超越への傾聴・黙想・祈り・信仰）の展開——思想的伝統を視野に入れた現代的問題意識にもとづく包括的宗教哲学。

坐禅会

月曜日：17時20分～20時10分

木曜日：18時～20時30分

場所：上智大学内クルトゥルハイム1階正面左の部屋

3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不規則の参加も可。

接心 2004年度

関東

4月28日(水)20時30分～5月5日(水)14時

6月11日(金)20時30分～13日(日)14時

8月7日(土)20時30分～14日(土)14時

10月24日(金)20時30分～11月3日(水)14時

2005年2月26日(土)8時30分～27日(日)16時 上石神井5600円

秋川神冥窟
1泊2400円程度

関西 5月29日(土)13時～30日(日)16時 宝塚市②
7月31日(土)17時30分～8月6日(金)13時 宝塚市①

連絡先 ① シスター田中 電話 0727-59-3742
② 岸本正 電話 078-583-3067

指導と問い合わせ先：

クラウス・リーゼンフーバー神父（上智大学文学部教授）
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056



京都教区・聖書深読黙想会

2004年度

翌日の日曜日の福音を、深く味わい、分かち合い、解読で学びながら、福音を深く心に刻む 聖書深読黙想会にお誘い合わせの上ご参加下さい。

- | | | | |
|-----|-----------|--------------|---|
| 1. | 1月31日(土) | 新井延和神父 | 了 |
| 2. | 2月28日(土) | 奥村 豊神父 | 了 |
| 3. | 4月17日(土) | 奥村一郎神父 | 了 |
| 4. | 5月22日(土) | 新井延和神父 | 了 |
| 5. | 6月12日(土) | 中川博道神父 | |
| 6. | 7月10日(土) | 新井延和神父 | |
| 7. | 9月18日(土) | ペテロ・パーケルマン神父 | |
| 8. | 10月9日(土) | 奥村一郎神父 | |
| 9. | 11月13日(土) | 新井延和神父 | |
| 11. | 12月9日(木) | 奥村 豊神父 | |

場 所： 河原町カトリック会館6階

費 用： 各回 2500円

時 間： 午前10:00～午後4:00

持参品： 聖書・筆記用具・ノート

申込・問合せ：〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル
河原町カトリック会館内 聖書委員会
TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910

各回、お申し込みは3日前までに

主催： 京都教区聖書委員会

上野毛。宇治。大分

カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

聖テレジア修道院 (黙想) はカルメルの霊性を体験し、深めたい方のためのものです。黙想会、練成会などにご利用ください。個人でも、グループでもご利用いただけます。お問い合わせ、お申し込みは、下記へお願いいたします。

158-0093

東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

東急大井町線 「上野毛」下車徒歩7分

611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

京都駅から JR 奈良線 「六地藏」下車徒歩15分

バス停「町並」(京阪バス) から循環「御蔵山」に乗り「西住宅バス停」下車徒歩5分

870-1152

大分県大分市上宗方 1800-3

TEL 097-541-4012

FAX 097-541-4404

大分駅からバスで18分「明礪橋」下車、橋を渡りすぐ右折徒歩8分

男子跣足
カルメル修道会

お 願 い

投稿くださるときには、次のようにしていただけると幸いです。

1. 締め切り 毎月10日
2. 原稿サイズ：B5 左右の余白：最低15mm
3. 「心の泉」のコーナーについては、随想、こぼれ話、書評等。「断想」、「陽あたり」等、小題をつけて。
4. 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。
5. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただくことがあります。また紙面の都合上、全体を打ち直し、詰めさせていただくこともあります。あらかじめご了承ください。
6. 寄稿連絡は、九里 彰神父宛にお願いいたします。
〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院
Tel (03) 3704-2171 Fax (03) 3704-1764
7. 「霊性センター・ニュース」をより内容豊かなものとしてゆくために、これからも献金へのご協力をお願いいたします。
郵便口座番号：00190-2-95003 加入者名： カルメル会聖テレジア修道院
通信欄に、「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。

「霊性センターニュース」をご希望の方は、下記まで郵送ご希望の月数分×220円切手または現金を送ってください。これには、封筒代が含まれています。

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

Tel (045) 575-5722

編集後記

話題の映画『パッション』を見た。若干の脚色を除けば、聖書をきわめて忠実に、リアルに再現していると言える。ある信者の方は、30年以上も前、世界史の先生に言われた言葉を思い出したと言う。十字架のキリスト像を指し示しながら、「キリスト教というのは、大変な宗教なんだよ。血だらけになって殺されていく人間を人類の救い主キリストと信じているのだから。血が滴り落ちている十字架を、僕は見るができない。本当に信じている人は、日本には一人もいないのでは」と。

一人もいないかどうかはともかく、ユダヤ社会から拒否され、ローマ帝国の権威の下に反逆者として残酷に殺されていった一人の無力な男を、神の子キリストと信じていくことは、生半可な態度を私たちに許さないであろう。事実、初代教会の人たちは、ナザレの人イエスを神の子キリストと信じることに、命を賭けていったのである。十字架につけられたイエス、それはまさに「大公案」である。

(P.九里)

